

研究代表者氏名	藤井 理行		研究組織	11人		
所属機関・部局・職	国立極地研究所 北極圏環境研究センター・教授		所属機関所在地	東京都		
研究課題名	氷床コアの高時間分解能解析による急激な気候・環境変動の解明					
研究の概要等	<p>本研究は、南極氷床で得られたドームふじ深層コアの氷期サイクルにおける1年スケールの高時間分解能解析法を確立するとともに、コアに記録された急激な気候・環境変動の詳細を解読し、地球規模の変動シナリオの検証を踏まえ、南極域あるいは南半球固有の新たな変動シナリオ解明をめざす。本研究では、高時間分解能コア解析により、研究計画期間内に下記を明らかにする。</p> <p>*急激な気候・環境変動イベントの実態解明：気候及び環境指標要素の詳細な解読により、数年のタイムスケールで、氷期-間氷期移行期の急激な気候-環境変動、北半球のダンスガード・オシュガー振動に対応する気温変動、大規模火山噴火に伴う気候変動などの急激な気候・環境変動イベントの詳細な変動を復元する。</p> <p>*急激な気候・環境変動のシナリオの解明：これまで提唱されている気候変動シナリオ（マーチンの鉄の仮説、極域海洋深層循環のON/OFF、巨大火山噴火など）の検証的研究をすすめるとともに、南極あるいは南半球における固有の変動システムとして、棚氷大崩壊、南極底層水形成、海洋生物活動（南極周辺海域は、地球上で最も生物一次生産が高い）、ポリニア形成、海面変動に伴う南米パタゴニア沖の大陸棚露出などの環境変動と気候変動との関連を明らかにし、変動シナリオを解明する。</p>					
当該研究課題と関連の深い論文・著書（研究代表者のみ）	<p>Fujii, Y. and 11 others (1999): Tephra layers in the Dome Fuji (Antarctica) deep ice core. <i>Annals of Glaciology</i>, 29, 126-130.</p> <p>藤井理行 (2002): 地球温暖化. 日本化学会編、7-24. 丸善、東京.</p>					
研究期間	平成15年度～19年度（5年間）					
研究経費 （16年度以降は内約額）	平成15年度 千円 23,500	平成16年度 千円 31,200	平成17年度 千円 9,900	平成18年度 千円 9,900	平成19年度 千円 12,200	合計 千円 86,700
ホームページアドレス	なし					